

成果検証報告書

【成果指標の達成状況】

成果検証実施年度 平成29年度

| | | | | | | |
|--------------------|--|---------------|------------------|--------------|------------------|---------|
| 市町村名 | 朝霞市 | | | | | |
| 提案事業名 | 市制施行50周年及びオリンピック・パラリンピックを契機としたまちの賑わい創出事業 | | | | | |
| 事業期間 | 平成29年度 ～ 年度 | | | | | |
| 成果指標 | (成果を検証する指標) 年齢別人口「0～9歳」 | | | | | |
| | (成果検証の具体的な方法) 統計情報 | | | | | |
| | (成果の目標値に対する実績) | | | | 達成度 | C |
| | 従前値 (29年1月時点) | 13,061人 | 目標値 (30年4月時点) | 14,000人 | 実績値 (30年4月時点) | 13,004人 |
| | (施設建設等の場合の実績) | | | | | |
| | 年間利用者数 (人) | (目標) (実績) | 稼働率 (%) | (目標) (実績) | | |
| 住民への公表状況 及び特記事項 | | 市ホームページに公表する。 | | | | |

【事業効果の整理・原因分析】

平成29年度 構成事業

| 構成事業名 | 事業効果 | 事業効果の概要及び原因分析 |
|--------------------|------|--|
| ① 市制施行50周年記念事業 | ○ | 市制施行50周年を記念して公表したキャッチフレーズや市公式キャラクターを、市内外のイベントやテレビ出演、記念乗車券やうちわなどグッズの作成等を通して全国に拡散し、市のブランド・イメージの確立・浸透を目指すとともに、市制施行50周年への取組を市内企業や市民等と進めていく体制を作ることで、地域交流の場の創出や、企業との協働の促進につなげた。 また、市制施行50周年の機運や郷土意識の醸成を図るため、朝霞市民まつり「彩夏祭」などの行事や、市のブランド・イメージを支える場所などにおいて、一年を通してさまざまな展示を開催した。「むかしのあさかはこんなだった」と題した朝霞市博物館での写真展では、市民提供写真を交えて市の歴史を紹介し、好評をいただいて開催期間を平成30年6月14日まで延長している。 |
| ② オリンピック・パラリンピック事業 | ○ | 市民体育祭や人権講座など、例年開催している各イベントに、オリンピックやパラリンピアン、世界で活躍するアスリートを招き、東京2020年オリンピック・パラリンピック競技大会の機運醸成を図るとともに、開催内容を充実させることで参加者の関心や満足度を高め、スポーツの普及・発展や市民の健康づくり、地域連携や地域コミュニティの場の醸成につなげた。チームライフ体験講座やアスリートによる走り方講座、朝霞市ゆかりのオリンピックがデモンストレーションを行う競技体感イベントなど、新規のイベントも多く開催し、会場市として市民の一体感を高めた。 |

【成果検証の総括・改善策の検討】

| | |
|--------------------------|---|
| 実施事業について 十分に成果が認められた点 | 市民の地域への愛着心醸成や、市外の朝霞市に対する認知度向上にはたらきかけるだけでなく、市制施行50周年という大きな節目の年と、オリンピック・パラリンピック競技大会という貴重なイベントを契機とした一連の取組を通して、行政・市民が共に市の魅力について考え、プロモーション展開の基礎を確立することができた。 |
| 実施事業について 成果が不十分である点 | PR素材の完成やイベントの開催が年度の後半に集中し、効果を成果指標の実績値に反映させることができなかった。実施した事業には、繰り返し継続的に行うことで効果を発揮すると考えられるものも多かった。 |
| 成果検証を踏まえた 今後の改善策 | 市内外をより巻き込める事業の内容を検討しつつ、有効と思われたものは引き続き行っていく。特にオリンピック・パラリンピック関連事業は、平成30年度以降も開催内容の充実や、PR方法の工夫・強化を図りながら、さらなる機運の醸成や、会場市としての朝霞市の認知度向上などにつなげていく。 また、キャラクターデザインやグッズ、記念映像、印刷物など、次年度以降のプロモーション展開に活用できる素材を多く作成したため、それらをアップデートしながら、引き続き積極的に拡散を行っていく。 |

(記入上の注意)

【成果指標の達成状況】

・達成度(A・B・C)の判断基準は次のとおりとする。

「達成度A」 目標値に対する実績値の伸び率が80%以上の場合
実績値 \geq (目標値－従前値) \times 80%+従前値

「達成度B」 目標値に対する実績値の伸び率が60%以上80%未満の場合
(目標値－従前値) \times 60%+従前値 \leq 実績値 $<$ (目標値－従前値) \times 80%+従前値

「達成度C」 目標値に対する実績値の伸び率が60%未満の場合
実績値 $<$ (目標値－従前値) \times 60%+従前値

【事業効果の整理・原因分析】

・事業効果(O・△・×)の判断基準は次のとおりとする。

「事業効果O」 事業効果の発現が十分に認められる

「事業効果△」 事業効果の発現が多少認められるが、不十分な点がある

「事業効果×」 事業効果の発現がほとんど認められない